

群馬県立榛名高等学校 学校評価一覧表② (平成22年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	・ぐんまチャレンジ・ハイスクールの取組を、生徒の80%以上が理解している。	B	B	B	・チャレンジ・ハイスクールの目標と、学校行事や総合学習の取り組みが、結びつくように配慮した。 また、年間行事のなかで、講演会を開いたり、体験学習を増やすなどの新たな取り組みを行った。 ・生徒への意識付け、外部へのPRのために、校内に「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」の横断幕を掲げた。	・中学生は学校案内のパンフレットを良く読んでおり、また中学校時代に不登校だった先輩が高校で活躍している姿に大いに刺激を受けた中学生もいる。校外で困っている人を助けたという話も聞いており、良い傾向である。 ・生活力を身に付けるのは、植物の栽培など、体験的な学習が有効であろう。その点、1年生の花き栽培は評価できる。来年度以降も、様々な植物に挑戦してみたい。	・生徒や保護者の立場で、ぐんまチャレンジ・ハイスクールとしてどんな取り組みをしているのか、分かりやすくしたい。 ・「生活力」の向上とは、どんな要素からなるものか検討し、具体的に「挨拶、返事、掃除」といった項目を掲げていきたい。
		・生活力(適応力・実践力)が、以前より身に付いたと自己評価している生徒が80%以上である。	B	B	B			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	・「授業が分かりやすい」と生徒の80%以上が答えている。	B	B	B	・小中学校の学習の学び直しを含め、基礎・基本的な学習を、授業の中に組み込んで行った。 ・商業科をはじめ、国語科、英語科、家庭科で、資格取得を目標とした学習を、授業の中に数多く取り入れて行った。 ・生徒に、授業満足度アンケートを実施し、職員の授業見直しの参考とした。	・30分40分授業などは、生徒に好評のようである。さらに、工夫して授業を展開してもらいたい。	・本校の生徒にとって、基礎・基本とは何か、その定着のためにどうしたらよいか、各教科・科目で検討をすすめ、その定着が生徒の目に見える形となるようにしていきたい。 ・資格取得は、生徒の自信となるものなので、積極的に推し進めていきたい。
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が、80%以上である。 ・資格取得に挑戦する生徒が、90%以上である。	B	B			
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・生徒情報交換会及び学年会議が月1回以上開かれている。 ・生徒会活動や部活動に積極的に参加している生徒が80%以上である。 ・校内の美化、安全点検を学期に3回以上実施している。 ・保健室や相談室が利用しやすいと感じている生徒が80%以上である。	B	B	B			
5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・遅刻、欠席をせずに登校する生徒が、95%以上である。 ・学校生活が充実していると感じる生徒が80%以上である。	C	C	C	・遅刻の多い生徒にこまめに指導を行ったり、欠席の多い生徒の家庭と連絡を密にし、規則正しい学校生活を送れるよう努めた。 ・一部の保護者と連携が図れず協力が得られなかったり、生徒自身が生活のリズムを修正できず、欠席や遅刻が多くなる者もいた。 ・行事等には積極的に関わる生徒が多く、楽しんで学校生活を送れているようであった。	・学期始めや長期休業明けなどを特に重点的に、保護者との連携を丁寧かつねばり強く図るようにし、学校生活の流れに乗れるような指導をしていきたい。 ・学校に来る楽しみのひとつとして、多くの行事が考えられると思われるため、生徒が主体となって企画し活躍できる行事の充実を目指したい。		
	6 計画的な指導を行っていますか。	・「自己の生き方」と「将来の職業」とを関連させた進路指導を行っている生徒が80%以上である。	B	B	B	・求人が減少している状況の中で、ハローワークとの連携、インターネットの活用によって生徒への求人情報の提供を補うことができた。 ・家庭での親子の対話が不十分である場合があり、3年の進路決定の時期になってもなかなか進路を決められない生徒がいた。	・進路が未決定な生徒は、保護者の姿勢にも問題があるのではないかと、きめ細かな指導を継続して欲しい。	・情報を素早くキャッチし、より多くの選択肢を生徒に与えられるようにすると同時に、地元企業との関係を深めることにより、安定した雇用を確保する。卒業生の定着の様子をみる意味での会社訪問も適宜行う。 ・保護者を対象とした進路ガイダンス等を実施し、保護者の意識を高める。
7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	B	B	B	・学年通信、保護者通知等を利用し、保護者へのPRを行ってきた。 ・保護者と担任との面談を年2回設定し、学校の教育活動への理解をお願いし、家庭での状況を把握することに努めた。	・小・中学校で取り入れられているメール・斉配信システムは、家庭への確実な連絡手段として、有用である。 ・植物の栽培については、PTA等地域の教育力を活かして欲しい。	・学校教育にとって、保護者の協力は不可欠である。来年度はメール・斉配信システムを導入することで、こうしたツールも利用して、保護者への情報発信を充実させたい。	
	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・ぐんまチャレンジ・ハイスクールの取組を、保護者の80%以上が理解している。 ・生徒の学校生活の状況や、保護者の80%以上が理解している。	B	B	B			